

－震災復興祈念－
天心・波山記念事業

茨城県陶芸美術館 企画展

没後50年 板谷波山展

ITAYA Hazan—A retrospective
プレス・リリース

平成25年10月5日（土）－12月8日（日）



重要文化財「葆光彩磁珍果文花瓶」
(ほこうさいじちんかもんかびん)

大正6年
泉屋博古館分館蔵

葆光 |

その静かなる情熱。

（キャッシュコピー）

茨城県陶芸美術館

〒309-1611茨城県笠間市笠間2345番地（笠間藝術の森公園内）

TEL 0296-70-0011/FAX 0296-70-0012

<http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

1 展覧会名

没後 50 年 板谷波山展

2 開催趣旨

A : 一言でいうと (68 文字)

波山の没後 50 年を記念し、新出の作品・資料など近年の研究成果をふまえ、代表作約 160 点と資料約 50 件によって波山芸術の全貌を紹介します。

B : もう少していねいにいうと (306 文字)

日本近代陶芸の巨匠・板谷波山（1872-1963）は、明治 5 年茨城県真壁郡下館町（現・筑西市）に生まれ、東京美術学校で木彫を学びました。明治 36 年、陶芸家として独立することを決心して上京。東京田端に築窯し、郷里の筑波山に因んで「波山」と号しました。波山はその卓越した彫りの技と、釉下彩のグラデーションによる豊かな色彩表現によって独自の作風を築き、昭和 9 年に帝室技芸員に任命、同 28 年には陶芸家として初の文化勲章を受章するなど、近代陶磁史に大きな足跡を残しています。

本展は波山の没後 50 年を記念し、新出の作品・資料など近年の研究成果をふまえ、代表作約 160 点と資料約 50 件によって波山芸術の全貌を紹介するものです。

C : 詳細にいうと (748 文字)

平成 25 年 10 月 10 日、日本近代陶芸の巨匠・板谷波山（1872-1963）は没後 50 年を迎えます。板谷波山は、明治 5 年茨城県真壁郡下館町（現・筑西市）に生まれ、開校まもない東京美術学校で木彫を学びました。本格的に陶磁の研究を始めたのは、教師として赴任した石川県工業学校でのことです。波山はここで最新の釉薬技術と西洋のアール・ヌーヴォー図案から多くを学びました。

明治 36 年、陶芸家として独立することを決心して上京。東京田端に築窯し、郷里の筑波山に因んで「波山」と号しました。波山は、自らの作品に一つの傷も許さない厳しい制作態度で知られています。陶磁という分野が「産業」から「芸術」へと枝分かれしていく過渡期にあって、自らの芸術のために自作を割ることも辞さない姿は、「芸術としてのやきもの」、それまでにない新しい「陶芸家」の登場を印象づけるものでした。波山はその卓越した彫りの技と、釉下彩のグラデーションによる豊かな色彩表現によって独自の作風を築き、昭和 9 年に帝室技芸員に任命、同 28 年には陶芸家として初の文化勲章を受章するなど、近代陶磁史に大きな足跡を残しています。

波山は 91 年という長い生涯の中で、様々に作風を変化させました。西洋への憧憬が反映された初期のアール・ヌーヴォー、染織や漆工などの古典意匠研究、中国官窯スタイルへの挑戦など、波山の関心の変遷は、彼が生きた時代の姿をそのままに描き出してくれます。

本展は波山の没後 50 年を記念し、新出の作品・資料など近年の研究成果をふまえ、代表作約 160 点と資料約 50 件によって波山芸術の全貌を紹介するものです。同時代を生きた芸術家や収集家、郷里や学校など、波山が出会った人やものが、どのようにその芸術に関わったかを改めて検証する機会となれば幸いです。

3 展示構成

出品総数 作品約 160 点 資料約 50 件

※会場の都合により、若干点数が変わることがございます。予めご了承下さい。

第 1 章 修業期

第 2 章 高揚期

第 3 章 完成期

第 4 章 円熟期

4 会期・会場等

会 期：平成 25 年 10 月 5 日（土）～12 月 8 日（日）（56 日間）

会 場：茨城県陶芸美術館 企画展示室

開館時間：午前 9 時 30 分から午後 5 時まで（入館は午後 4 時 30 分まで）

休 館 日：月曜日（ただし、10 月 14 日（月・祝）・11 月 4 日（月・祝）は開館、10 月 15 日（火）・11 月 5 日（火）は休館）

5 主催・後援・助成等

主催／茨城県陶芸美術館、毎日新聞社

後援／NHK水戸放送局、朝日新聞水戸総局、茨城新聞社、笠間市、笠間市教育委員会、
(社)笠間観光協会、筑西市、筑西市教育委員会

協力／板谷波山記念館

協賛／日本写真印刷

助成／平成25年度文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

6 観覧料

一般 700(550)円／高大生 500(400)円／小中生 250(200)円

* () 内は 20名以上の団体料金。満70歳以上の方、障害者手帳、療育手帳をお持ちの方及び付き添いの方【ただし1人につき1人まで】は無料。土曜日は高校生以下無料。
11月13日(水)は、県民の日のため入館無料。

7 関連催事 * 詳細は後日、チラシやホームページ等にてお知らせします。

○美術講演会と対談

波山研究の第一人者・荒川正明氏と波山のお孫さんをお招きし、波山を語る2時間。

平成25年11月17日(日) 13:30～ 多目的ホール(聴講無料)

講師：荒川正明氏（学習院大学教授）・村田あき子氏（板谷波山令孫）

定員：120名（先着順・当日整理券を発行）

○スライドトーク「ベールに包まれた波山の彩磁技法に迫る」

映画「HAZAN」には波山が自作を割るシーンがあります。劇中の「波山作品」の制作協力をした陶芸家・齊藤勝美氏をお招きし、技法の面から波山芸術の神髄に迫ります。

平成25年11月23日(土・祝) 13:30～ 多目的ホール(聴講無料)

講師：齊藤勝美氏（陶芸家）

定員：120名（先着順・当日整理券を発行）

○映画「HAZAN」ロケセットで呈茶！

平成25年11月2日(土) 11:00～15:00 (10:00受付開始)

呈茶券：500円（先着75名）

主催：茨城県陶芸美術館友の会／協力：茨城工芸会

○映画上映会「波山特集」

会場：多目的ホール（観覧無料）

定員：120名（先着順） 各日とも 13:00～

「板谷波山」(茨城県制作) 11月30日(土)・12月1日(日)

「心ありき—陶芸家 にんげん 板谷波山」(下館市制作) 10月6日(日)・10月13日(日)

「HAZAN」(桜映画社) 11月3日(日)

「波山をたどる旅」(プロジェクト茨城制作) 10月12日(土)・10月27日(日)

○音楽会♪

(1) 県民の日ミュージアムコンサート

平成25年11月13日(水) 午前の部：11:00～／午後の部：14:00～

出 演：小林鈴勘（尺八）・馬場孝喜（ギター）・石川早苗（ヴォーカル）

織原良次（フレットレスベース）・福森康（ドラムス）

当館1階多目的ホール(無料)／定員：120名（先着順・当日整理券を発行）

(2) 「波山をめぐる旅」コンサート

平成25年10月27日(日) 14:45～ 多目的ホール(無料)

出 演：千田真友美／daizysuck (Vo.佐藤翔子)

定員：120名（先着順）

○ワークショップ ※企画展チケットが必要です。

(1) 「波山とまるの刺繡教室」

戦時中、疎開した故郷・下館で刺繡教室を開いていた波山夫妻。

波山の図案で作られた刺繡帯が今も遺されています。当時の生徒さんのエピソードとともに、波山の図案で日本刺繡に挑戦。

平成 25 年 11 月 10 日(日)

10:00 ~ 15:00 (12:00 ~ 13:00 昼休憩)

日本刺繡講師：青木 泉氏（第一美術展準会員）

定 員：12名（中学生以上対象）

参加費：1000円（材料代）

申込方法：電話またはFAXにて事前申込（先着順）

TEL: (0296) 70-0011 FAX: (0296) 70-0012

申込開始日：10月8日(火) 9:30～

(2) 波山の彫り技にせまる！「うすにく彫り DE アール・ヌーヴォー」

波山の”孔雀尾文様”を陶板に彫ってみよう。

平成 25 年 11 月 16 日(土)

午前の部：10:00 ~ 12:00 / 午後の部：13:30 ~ 15:30

定 員：各回 20名（小学3年生以下は保護者同伴）

申込方法：電話またはFAXにて事前申込（先着順）

TEL: (0296) 70-0011 FAX: (0296) 70-0012

申込開始日：10月8日(火) 9:30～

○ギャラリートーク ※企画展チケットが必要です。

担当学芸員が展覧会をご案内。

館内に移築された映画『HAZAN』ロケセットもご覧頂きます。

平成 25 年 10 月 26 日(土) 午前 9 時 30 分～

【波山ゆかりの地めぐりバスツアー】

本展に合わせて、波山ゆかりの地をご案内します。波山ゆかりのおみやげ付き！

平成 25 年 10 月 26 日(土) / 12 月 7 日(土)

9:30 茨城県陶芸美術館集合（没後 50 年板谷波山展・映画「HAZAN」ロケセット見学）

11:00 当館出発

12:00 下館着 昼食「食の蔵 荒為」（映画「HAZAN」ロケ地）にて豪華「蔵弁当」！

板谷波山記念館・しもだて美術館・妙西寺（波山の菩提寺）見学

14:30 下館発

15:00 つくば市洞下（疎開時に制作拠点となった陶芸家・吉宇田正雄の窯を見学）

17:00 茨城県陶芸美術館にて解散

参加費 3,300円（観覧料、昼食代を含みます）定員：35名

申込先：茨城県陶芸美術館 TEL: (0296) 70-0011 FAX: (0296) 70-0012

8 連絡先

茨城県陶芸美術館 〒 309-1611 笠間市笠間 2345 番地（笠間芸術の森公園内）

TEL.0296-70-0011 / FAX.0296-70-0012

展覧会担当 学芸課 副主任学芸員 花井 久穂 hanai.hisaho@mail.ibk.ed.jp

広報担当 企画管理課 主任学芸主事 中島 淳 kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp

「没後 50 年 板谷波山展」プレス・リリース用写真データ

*所蔵の表記のないものは個人蔵



「彩磁月桂樹撫子文花瓶」

(さいじげつけいじゅなでしこもんかびん)
大正 2 年 出光美術館蔵

「葆光彩磁草花文花瓶」

(ほこうさいじそうかもんかびん)
大正 6 年頃 石川県立美術館蔵

「葆光彩磁花卉文花瓶」

(ほこうさいじかきもんかびん)
昭和 3 年 出光美術館蔵



「葆光彩磁草花文花瓶」

(ほこうさいじそうかもんかびん)
大正 14 年

「葆光彩磁妙音紋様大花瓶」

(ほこうさいじみょうおんもんようだいかびん)
大正 8 年
一般財団法人野間文化財団蔵

「葆光彩磁葡萄紋様花瓶」
(ほこうさいじぶどうもんようかびん)

大正 9 年



「青磁下蕪花瓶」

(せいじしもかぶらかびん)
昭和 15 年
出光美術館蔵

「葆光青磁唐花彫紋花瓶」

(ほこうせいじからはなほりもんかびん)
大正 9 ~ 11 年頃

「天目茶盤」
(てんもくちゃわん)

大正後期